

社会保障に775億円

重要課題枠 公共事業492億円増額

麻生太郎首相は22日、09年度予算の政府案決定に向け、重要施策の予算を上乗せする「重要課題推進枠」(3330億円)の配分先を決めた。医師不足対策や出産支援の拡充、再就職支援など社会保障分野に全体の4分の1近い約775億円を配分。財務省原案段階で前年度比5・9%減だった公共事業費も約492億円増額し、削減幅を同5・2%に圧縮した。

(5、11面に関連記事)

推進枠決定について麻生首相は22日、記者団に「生活防衛と地方の底力を重視した」と説明した。各閣僚と財務相の「復活折衝」を廃止し、自ら推進枠の配分先を決めることで「官邸主導の予算編成」を演出するのが狙い。推進枠決定を受け、政府は24日、一般会計総額が88

・5兆円と過去最大規模となる09年度予算政府案を閣議決定する。休日や深夜の患者受け入れ体制の不備が社会問題化していることを受け、医師不足対策や救急医療体制充実に計308億円を追加計上した。新生児集中治療室など周産期医療体制の整備に17億円の予算がついた。

◆重要課題推進枠で採用された主な事業◆

■医療・子育て

救急救命体制の充実	4.1億円(新規)
周産期医療環境整備	17億円(新規)
医師確保・救急医療対策	201億円→429億円
難病の調査研究拡充	24億円→100億円
新型インフルエンザ対策	76億円→144億円
出産一時金引き上げなど	471億円→513億円

(予算額の左側は財務省原案)

■雇用・景気

中小企業の資金繰り対策	400億円→523億円
非正規労働者など就労支援	42億円→93億円

■その他

iPS細胞などの先端的研究	20億円→84.5億円
水田の有効活用など	423億円(新規)

高まる雇用不安への生医療の力ギとなるiPS細胞(人工多能性幹細胞)など世界最先端の研究開発を強力に後押しする姿勢を示した。

2008年(平成20年)12月23日

医師確保・救急304億円上積み

「重点化枠」で最も予算がついた社会保障費。特に医師確保策・救急医療対策に304億円がついた。

うち厚生労働省関連は227億円が加わった。全国約600カ所の医療機関の救急部門で働く勤務医に休日約1万3千円、夜間1万8千円を支給する制度を新設。産科医には出産1回1万円の手当を支払う制度、へき地派遣の医師の交通費などの支給制度も作られた。

文部科学省関連でも、大病院の「周産期医療環境整備事業」に17億円。このうち09

年度から4年間で国立立大病院に新生児集中治療室(NICU)などを作る10億円がついた。若手医師の教育や女性医師の復帰支援は6億円がついた。

また、難病対策は76億円が加わり、前年度の4倍の100億円になった。難病指定の病気を大幅に増やし、診断や治療法の研究に乗り出す。新型インフルエンザ対策ではパンデミック(大流行)の発生前に製造する「プレパンデミックワクチン」の1千万人分の備蓄費用69億円がついた。(野瀬輝彦、大西史晃)

享月

日 新 聞